

あけましておめでとうございます

府民のいのちと健康を守るために、「社会的役割にふさわしい賃金水準」をめざし、ストライキを構え、みんなで力をあわせよう

年末年始にかけて、インフルエンザが急増する等、医療・介護現場では、人員不足も重なって、大変になっているのではないのでしょうか。府民のいのちと健康を守る日常業務の奮闘に敬意を表します。

2025年がスタートしました。2025春闘の始まりです。

本日、石破首相の年頭会見で、「令和の列島改造」を提唱し、「賃上げと投資がけん引する成長型経済を実現していく」と表明。しかし、最低賃金については2020年代に全国平均1,500円と言う低い目標に留まっています。一方、私たち、医療・介護労働者の2024春闘での賃上げは、報酬改定で「ケア評価料」「介護新加算」等が新設されましたが、他産業の水準に及ばず、置いてきぼりとなっています。この水準では、仲間たちは辞めていき、欠員補充もなく、学生にも選ばれません。

「引き付けかつ留めておくような水準（ILO看護職員勧告 VII報酬第25条）」、社会的役割にふさわしい賃金の水準に引き上げなければいけません。それは、わたしたち自らの暮らしを守るためだけでなく、府民のみなさんのいのちと健康を守るうえでも重要です。

2025春闘では、すべての加盟組織でストライキを構え、月額5万円以上・時給300円以上の賃上げ実現にむけて、奮闘しましょう。そして、いま、行っている「大幅増員・夜勤署名」をより一層ひろげ、「ケア労働者の賃上げ法案」につなげる大きな波を引き起こしましょう。

2024年、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）がノーベル平和賞を受賞し、核兵器のない世界と恒久平和を後押しするものとなりました。しかし一方で、ウクライナ侵攻やガザ紛争等、地球上で戦争・紛争等が繰り返されています。私たちは、「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」と誓った労働者として、いかなる戦争・紛争に反対します。

きたる2025春闘では、府民のいのちと健康を守るために、「離職STOP！大幅賃上げ・大幅増員」を掲げ、権利としての社会保障の実現、4月にはすべての新入職員を労働組合に迎え、闘いながら組合員を増やし、1万人医労連実現にむけて奮闘しましょう。今年もよろしくお願いします。



～当面の取り組み～

京都医労連中央委員会 1月18日（土）10：30～ ラポール京都（四条御前西入る）

日本医労連全国看護交流集会 2月20日（木）～21日（金）

日本医労連全国介護交流集会 2月24日（祝）～25日（火）